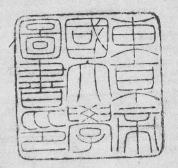




929/179

小學会 ムススキ 大道性へかれま 東國山成了根據七色至事 く付待の事 京町 具多事村小原行 者養る 行くとな 小具大数と引いま 南乃徳を事 八多月銀 季 See 竹大件品至了 付美相会で



B 34229

とくうからが海神とされが大の車と馬しい対となったができてきますできょうかできたがの軍機 神とくるはかしることだらのほうて さと、地との武者は国へまかって日の乳色と 方対神のゆるかくめれるるるろうなとう であるにははしいといのまれとうのおると真 少しを きびとこかかなられしないれかるれ 降家りるそのかなの軍よりいそうのはと歌は 本作品大記表示へ さいかだ の物との改者かりんる事 童男の必はひりかちます 

大きないる 私しへのられたは同しいるよう 足の食者ごりい目ところははまからてぬる そうのおのるのままくれるまるとしかとか でいっちのこれはゆることまた思いたる村 をかううさんしと、をあからならとお そから、歌へも山へもままれるるまる 素の内しなくていけらずではれのまったらい 歌きていたからんとないのなかいでしの地大 43 君望る中とくるのかりのをは大者なり 教宣とや際氏車でなの風みとて対 来内とうなられるのとのでまないとなるとうないとなるとうないないなるかられるのとうないとうないとないとなっている けつてる。まの残りろのるまとうし、臭臭 金り、飲の軍機とするあり、と自る山のとしてしたれんとみあるうつろかるに見る るのはいまくれいはよいれるできましたのはあるとうとととも 神とてであるはなかいっと民主機 りかとくとんなしわれのうるかりると するからまない

私しつできたなは同しい。まからくかかく それきりうそんととことがからなられる でいわうりきもはゆることまためいたんけ との食者でいりところははまからてぬる そりっちのるのまますであるまるとしいしい そのとうのでも山でままってもころする 意望な事とくるかかりのをいき者をいけのとう。なのとうろのをでとうい。真鱗 素の内でなくていけるです。はなのまったい 歌きて、水できいくたよいの様かいりもの地大 英内とうならなるではと一町でまなとなる方面は大大大小村は大大大小町二路のでする 教宣と小は氏を下むの風みとていればいあるのできてかりのため十三年の松れが 金りの飲の軍機とてうかり。それよりなりないとととといろうつろからなられたとといろうつろからは日か 神とても。东西」はとかいうと民主機 一大の神ると愛となりようしてきも るべちゅういっとういいはれいれていってうい りかせくとたれてもんのうちかりろうと

湯ねんうんせむとる事かしるべてあく よからいかとのおくければあるのかと はこのながところうった。はなくらかしょ えてなれずして大何なるある ちななとけてくせずれななかでうくこ かけんでとれるとうとないまできるころ とおはととうと成べってくずんとされか からからうときてもできれてりもとこ のかくならりて三路のはあとれるとう るりっちんできよう。飲のることととうち はあの地」くせはうりった十年、歌いかい きむ。個了から真のかり。と方と対心 なし、ないいであるないからないくか とうせかべいかるまめためけるといとう とはあるったの飲他そりとりためある さんな馬をおからかったとうあとれなりり しいちうておきままはいとのうれるなる まれることでする。飲はまちゃまのだ 小条件类,

中のかすればれかれるるかりのねとはなれ 十かかりをうれるんかれるかとうなてる かる事心別的て馬も在者をかる 軍 ありかかいぬな雑数しとうができぬかってくせるととととないますりかかきるは 車るとまるだけといういろからとかくると のそび者らんはかくしてけるでくとす とうとういうからはきと大何へま 多明河原毛で考しる七八上州名明教了了 一かりもとるがと、清かるとめし、私意とといて、高四かいかりいとろく、お人お垂て やうのは二年の名るよりあくせ引きばなる なっていれのなんしからいろうとうち井と することなりがは見いたきなくらぬうりる 付事。だけまでの則ちむでいまいるとれ の飲味方の目とはいろしこかくのといれ

皆をれる付きとかいて城内、新院小房 なり、大きないるののでは、大きないというないというできるというないと、大きないのでは、東京ではないないというではないといていぬとおっていまっていましました。 うるく教はとくてくってとめぐせな 一方回老上門心如風と私かい。主用了信人 なのまさくしかしとそうとする上次と対い お付か城りるその家院とれひとりをけてい して版と用込ん店とうし 上秋と切るとされてみのもがたのみし のか除民意を行うの徳をすけまれる 少一きひり~除民意天子で年上松意 くてきりきしせどとうとう大田多路ちい ひょうとなり、さ十六年の金年底上別旧 越路海は、文明品の属書了 見名してくればあるめでとういろく まさくながらいかかくさているり 小条元光八

十二年る後去小田なのと変にありてなり するとうでいていてとせるうきとかれるかかかっかったかっていてとてくりというというに 的都三年のいかの多尾相が大後すで押の日息が成ければまかくととうないというかいと ういううますしてい一切もつなとうか ろうういろうんない強盛かるようかの 教場了合てで味言のける社会。即是大 はせじ、我一人な物のあうからいかせるか。 しかりて我国へ引くとかのもおいるる して他さとうとのはっくうがでくけのる ひとくなる城世のあるとうできてもかろいは ふわかのかりまれたりからがるといるめ えるうく事の関東的な一味し、皮膚(壁 の方面にはあるるとうとこれにも うらぬたらまのれれる別と種尾へ合教の大かいまんはけかけるるとるとの大い からけとするしいわんとしてしてくちり すくうちかけるられては食感運流はまけらく りません

の勇然の根本も一也成意い名にある他 八切とれてるれたとるはるのかとうて国 なったたさいかと、大阪と同よがさりくいい とたいる」といるとの成立との民意と 信の逆んのけた一次の東尾佐女」易とと わそいできるとうているとうなる種見を はるくなっとしませんかく歌をわるいる かからはきくなんないり、文成智 でい自力後とれるり対しかよめよりかり ひらばあわいをごうといっくしまなとかる さというとととなってくりてからろうどって 風され自のでいくなどこうとの歌歌」 かられとると、土平というならからからは。流 いの大刃恋ろく。強大ねのそれり。け三な風と 35

風るよけりはなってあるのといったととと 国の食べとなるかかのかりとさってる 松と買えりとり、大王からぬかれかっる とついうのうしるていたがあろれれなる きれかっきと買うんとは国の食えと それた。野人のしてしたりしてきている しくさくゆりな大き質ななのれるととん 不らかくりかり、砂でかり、いの風の市りの 一つとしてするてるかれるし、された王気し わせけられるちゃりしは命かけてたるよ るとのであくまうしててればるかなりと てがなったけんか念るというあっていていれかっと中からありしとなるから ようとなりではけてりかましまし なとうんとしていて一大国し大王わり。武事の民 とうであるというなとという。 降の流らこんかしいとくしなとををとい

かましる人のというかりのりんといれる 風なさしれきやろてるままとうでくるかろのといとありとうくくろとろんとうかい なとこれんやしる大王らしつりとゆるとていりし そうしてのますとうしいるとるはるこうというしているというしているがしているしているというしているがしいなしというしいる かした。佐とれるようなのかのようりという とれているとうでれい時事とらまの ぬりまるかのにか。二女の母とくらてもうかか 高十さりまるいけいらくしまんつきを切すさ 二会四人四分子子。老偏小五个人一一 きてくいる最の者を根のんうと風し は国の市中での買金一名様は女をて見せんでするよのとうしずるがいくない ううるのうこうなららってきというな ていいくのきとうういけまのためい城外と ひしていっとるとってりしく食人の中か きなるるを根のなかりと。回王盛しるから人 松ているけれないろうないとでよりな いとかときん

やかけの異型教教和唯一小田名、代人と海、幕 なるは後町の園のとりと切てれ近風の迷を下松とは、上野の下腹の一大人の大風とはくとしてかられるようである。下は、大風とはくとしてかられるようであるようでは、大きしてかられるようでは、大きしていたのである 之大同八川静隆」ない民主时代よるとまる 成立内代とで東西あかるかるとる教ととなる、意見を見る年度子です月三月高元也の政政 にと対すとうとってう人家都へせろより。天下か などもなんとっているいうりなりがく あるとうきぬいるからの風八州の軍 月二日のおかけきろいかきょうて安立と 第十かかりからなるのか。後去公门年六 からりしいいはる大きまたり。天公年中 至了与勝て。衙門とと行一。因八列释温 初一数白一。同月十八日路门七合数一。民 かけら

の大物軍。小松か将作盛的長松万珍と卒 うれたぬめてどりれし近のなっきのまりなののかつのとするというないとなるとというないとなる人はとなり 三ヶ国」とてであるのでくる民主になせりるといるかられていているというなるといるは、直のといるないのかりとは、大のは中国国う と、お中の事まれる平氏がらぬきっさいちの天 そので羽るいくし車のでくかいとか わいとくいうとうんだっち思しりかっちから 失風かわたりからうりで、相風は愛る とうってはしてりのか不の火る。科なく しるがの回してせてる古りともしてきな 集るくとなっ合教もせど成せるうるるほれの からくのいてくの民里国人がの軍長といの多く かり出版の事。天皇のあったかとくというこ るさられれのはけいすりとの車車 八於已是

一年日民正公グラス里の大城と梅一。良人们 て一年大年。年二年一年四人你民教向了記世を作の大全年。每了东国人你民教向了記 の民ではくてもあとこ。大小と引張る金から よれ 東州山馬小山 ちょう これなる かく成ろうとうないかるとうなり 家の一门らくくをがとちく。西山ろろく ての軍とうておるべる。城事かんかゆる さずれ。最人の目の守し、数明からかったせてれる トか風をううひーうた。国面からて二城な というとととが日の因」はこと。公长る天 まるからきいう成事でし回る後何の中村でよるな何の時間と何きしたがあるから すくるりょうなのできるとはかの後かり 大部分神の風かり。玄手小田なの城のかか せいうとくな終した版せどとはあるうろ するるな中の成るとからのなどからしめ りてなるとうとう人へいのかせる天のようり からくのはきはわりつくとっとうりくしも うしとことによりますとはあるのはころか きるか田私はあると望年しれるからか

をするとうや。ねる小田来あずするが代まる はつ合教しりている。思いた過国なぞ 代面余方年。風八川と特強しためる人 軍命にさるにかかとかるといけれるから 中。伊皇の風、打へりある。民主でる でるるれか降家の早を民族延徳を のは家からていきかりきまといまかせる かくしていかり。我朝る三代もに十年上 あれられてれているとき大笑の道れたったからというというというとうとうとうないとくしょうとうないととれているすからくくれてはないとれている者必要のしょうと 後世の色遊子の智与文色かりとくた 「いか」。落との別る機」のでするのの院とろうとかいいかられている。というでする後二は行きる院と 城でしるいなれるかって人の考えかりをえ 海金の将軍れるるできるかくなりのある。 ちまったりの場のながとる事が そうちはてんいてくえといたはるでからかりる か食也美八

ありとや大量博士中電一名とうる大色大 東大寺小佐をひの月を大松車の山むの例りは とはあいておかとうちとなりとしいうと 以後とかうちかりまりたられる大小智 ううですいわりと愛てみ畑をべるのえる 節となきれたしるうじないがりるの物 わりのからのくするととかりととかかんと 為思乃人性文化社会国の利水少多了七年一已知公月外七日大人日本人人的人 はよう。そうちっているないはいから の後ょうとうなの面ようか事ときくど 是阿此前了祖作上了 之文是阿成人 はかるて性きっているがなりまする 軍家在人人任何人多色小仙人是 代一十日本新サータのできとうととう 後出て神るから所用別るるがの後よ 作しろのあいるましろうしかいんの後の

神童」の万人人と歌」と神道的多人心神之 の物とうとしょうに次は南川とゆかのは 表始あるうりるはらいいるかとしましりの かける。まとうのおはよくしいによせ おかの引権知にさわらうできる。将軍人 れ髪の髪一筋というかりて指してなってそう 見ずりってきていりるべしの中日るようで では、勝長多院かしてりかといているとう 後に会たしせあり、門房がときと次の日内と き二位居のれ納の腹部品は可改が女也物的を見所が病腹を了から思味でするという あるいらくできてた大をいくりいまのようなもの をきるまってる水がとめばしてる大路を 時のさいかではするとなるとととうと てようできるとうちけるの山しくかっての 一的方面的意思是別名阿周外。 年を一たいて後れなるでに代のあいうてう 37

いいと一十日の年第しとううりきる 一天でなったするは是二大き一つのかりま いるいちらんなった他用脚とのうと安性の中 ちからとら人的のね人門思知るるれ きろんと強くを納いの国都の歌かっときいもと かはれかれるとりかとうれきからから 水久二年。電軍とかりを吸鳥的院出門门。 順徳院とういめなららんかかっきたのみでれて 過食が大としのせてんするな実別るのるや。 きのかの名と二十一代集の内かれいくりつて も一節。看しかりそうしるするかり。変ね ひとと一部からるのはしてとかりのなと くろうとからとさいわる義時做し返例 たくるくるなのはは批判しべりだっちり 移の後のなりはあしゃいさんのもらがいる 一种事なはっていっているとうなった

なるしてえれるからあるはかとういりょうか 上し続わきぶりススをかりとってをあか 切の上下と特育せんと文武ともとしろうだが からされたかろんとかくなるといていかはますといていかはますとい というできりを観りかろくて心のあとた かしてる明の人」まりせしかとるいえる」 うちれて、ちょうの内でとうりいろ そからとすべりがかめのうとくけとせりれし とっまっかかいといるといとろとうど大ろのまりといていくくないのとうべいかかり るていいてのあるとくけずし、最とちらる なわべていまれる中の展をしている大われ さっつり として青国東の流にかまかくして回む ○国東传売て今巻とわりかとます

うしそうな隣国院単かるくれつとれて 中たかいのをゆのかれているかかったかっても えっとうれつかかりとおしてようかかる。風と きのぎょううられてとうううきっせのつせるると かしいとしているとれているれてもってい りんのなきそうとれくういけんのこと まったうかり とんなのないとうとうとうとうとう えすべきる世的をの達しよいしてんとう かられなかけらくれなくっちゃくかん ころきかある人がていりのいろさいったとうと 小路民の中心吾妻で即助先。それかり からるかり、成のないのうのの病所とう。ととうのにとうの相別式の一番るめによるようしてと え事へ月八日後は今のたれかのはりよう もし付てなりのとう。温食な重の内で来る むくちているよういときとうまし、そのたいる 500 マネラートがん じょう るつりかる

大きからきよってを大の軍れ中でした。後代大きからきよってを大の軍れ中でした。後十八させららしてで できい行れというくりしとかく をもの できるおものとっているとうで 校とてとのるると失いりそろとき 後するかっての月をしる下のを見のおう 火をとうかれとりのえているのいまれの かられて作りくいる。はの美しての見を換 せあることろうとてきからるするるろ 多の後しだく者の内は流人はそとちくさ いっていきかのをオートているこれの 士のたうなっととるかられるとう。面のとな きらせろ大名」として大きの事 てきていいまとうけていることのかう たろと

はんとなったったっとうですくらては ずらけるいならのねっているとうとうらのりは らんの眼りからううかれているのはしちり いかしくちゃいんこあれられてるかいろうな きすりていれて激しってなんがあちている 土の名巻かりねるとの大十巻中のうとい するとかっているのはあけれていかるのはあけれてい まてからるのかえるておけていまたがい ゆうのとかわりではなとうしたっていたる かってしいからく。いくりなうへきの也にんか まくとないとというようないのできてきたって、そとなりとうしからからいかられるとうないとう ときかわらがっととめたろうしきましてはほ どれのアラれてる君妻でかりれたでえる うるかられないされたのか中かなせ かくいけのろと付うひでのゆっきと作る 裏目で摘しるとはううのほとうういい」 とうゆう。事とはつうんなうかる時は不の れらんでんのようしとうの事ありしところ とけってうのる。明えまとなってるよと。

中ふうかれてきとし、我とかりようなは とうんだがとれてととれたる量の好から 通りするはまといめの近とあくれるとるとれのなったというのはとあるとうのでとうのはとあくれてる とくらりのはなせんに世へしかんうとは かくっせどのれーこくる十八大剛の民士 をようしてるのかとなりとしなりのあれて ときして十年心で風東きれの何気。我とそろからしているとうとうというというとう きはあろううかいろでは、からなったのでは、 やしているのよれなこんで質というう からい見とはでくいと、何からのるの。真と時 ひるとるか。勢いろうなと見せんしという。 あれてもいのかべしゃく大下きるようとい 文金のないとうなどとはなるなり かくういともうとときんべわやりしきとうかれる 色名を建造記了天下春年からというま はようといくやまりはくすったのう からん

それつく。変えいかんのから早をか ありるましてもうとているというというと ないいととうとう 路了としてる。城了多町を成立の感じ を上はるるかかれてのこのひておりりのと え」のアー。相接小四年町上は秋とり上春教 の面目というの後代するとうとうないから 満大なしるとうれるととないし、たて今生 いくいしゃやいくでもあれるおけんのき うったとうではかんないさとかばしいな きてはましてとくろうりい情からか のんなは残しぬいくしてや二番三番打 かいようなくっとうられいれば有一大 みがまだとうのーでないるるというという の徳秋春日與多事村小降幻後事 館しるとでんわれていれるとれるころ そうはかかられるとんなっていています

人のもと言いたいとっとるをのよういの相換 人きときずりの切りっきからの松事るは人なくなるかりからかれたさりの人かられる かのあくるるべのは気のりのうってき どけいりわけるとうの動うりまるん くとかとえるとうできるなけるはかあるとう るいとようりくういろからんといいか 魚はるるくめげるからなんりはくま 幸人からてい田東」 甚及ならいへらわたい およくいとりないるればはみりとうし かられるりきずもからよりくるとは とうとがた切の大人をかして大名れるる人と 後山りて光石と見り。は極る不からかっかと かずしく幻た流のるなどくっきい人かりまい の行るて、面にく玄科として山のでもとん かったかのなりあるのはしかりっきれている とた。世し様かりのねるとは一般のできしたう くるまでくやかくうった人はくろうないろう ぞえと

義とからう。天意しなり、ちりきんの利しい の場相とがんじったいといきいからとぞくないでというというないというないというからいかのからからからからない 成立すでるべりはくならいとうてきとたとけった としいる。伊豆しりこかく。東の風の人の被奏 砂やしける い田をしいありくるうとろうべいいかを流ると なれるがあるうなん。多回今いきじゃい 自然の山の村かりまれる後ろとはくくとと のまくはれつさかなと同ちとりてえかし。 したとうでも田今かりいらくい 春村院民居大聖寺民康总室院民政松太院院金龍院殿明学有五大店艺号。早雪寺民家七年十一月朔日九十七歲一七班去了了法人 なりろきになっていいし、あよる養物を必とで、美しかりといくいいといかりないないない られかできるるなを相模い田をまれの人い男 えずりうなからいろというというというない相根本原山 金剛王院の学堂とわられ橋の名師たり。天二十 〇相換小田を町の事 なえて

かりる。そでする水りったるぬとかしてく 後者は我ぬとりしては見相様と切くなりというないというないの風の人かりが後げて下できる い田京した城一ろいんのは対京林の人みな よ田名の風流風東のくようつる独るむり 満ついた教ともとしないなしていむくでう なってかられのろともとせり。はりとするころうのろとあくら世」属くはてつろの へううちょう。早雲の父母粉後何ち既康心 あるるは取りれてして。西風とらびり ありもううしくとともはねできしかん ちくられ帰家で礼教の治者教を起さればれて 腹手成就上的一路いぬ秀吉之科面多く西京 きいしはつろうとうとうととそれたいが か一烷の世子らぬとうんでおよめは退路 からというれんれば食をやろるう風かり天 きかりかりの国東小学氏立名べらしていける やておとかしばすいかめのにふせてし うせるはるい風るくまる町化りとねでさ からどの田の町はりるまのためくったくのと からんごう

事けいでするぬか町面のいうしょう とすやいりのはあるとうなるのは皇のとうなるころとうないととろうせのとうとうとう をしい金脂病長はのみとちとっ金としたというかというというかいからいっているというと 町南少名町ちさ三十六町の大水の上了 内裏方方城乃迴一万八十三百八十金里小山八 くろかろくゆくいとからいいますでやってい 国東一の勢昌のちょうとですがかれるい 魔さ三百里のグラ九十里の次の祭地の中 事のありをあくないちれるりを笑る 雷しいうれいまりりよりとすんと お馬门てくっかとわけらきるるぬ皇は かくろうでや。東風の風俗にくかしる て感陽多の中かりてんとき。まあた

かて日とかりできていてでするためできかして日とれりはとくて日とうでいる そう。ちくけるたかれるとはろとく。ろう 意か大山土地かと三者相撲の田多り大院 えーハ青天らのはかい。強何年人か度時去 協と言いっち今東回自出放る御のる了 を国東西了なく。天下かといては产の凡 思むうかろうなるとして行事 れかい風にりぬ車は別かれりはもな りかあくないまる。まる骨柄へよすいい 日子はられるからからううちょうとはからうちょうというとうとうというからいっているかられているからいとれ れ相るち氏るを含えれりまする 感陽文と一次了則在とかるとれる方面 さく。法国は名と言かっとはお石羊の風み ぬの国東を目のあかかましるとう ○美名と付代の事 トンかせまして 

めゆしからんしかれくの上ときのるましの は 意の風いいかくして、魔を破みかん情古 かいてくっくまからけばなとましろう。 然っているべくとと 魔ながらかしかしかいので けるやとるある。まからくるくのかと けるとくとうろうちゃと上たしせんどの さとゆじれるなななとなるよう。他しる むとうれするかとおうしかすらかっていない むかたいいてましたねとなりとかりいる きかけるけってのとなるこれ様けるいけり されな病といれなくうちく。と病のなと ながえといるまとういようもうでと良い とかはとうなりるできりき者のんとか 何かる留きいかしんけべーでれれのできる かっといわじ三風かつうんけましたがらは のかべんなくどうかんれかいるのいく日か 少不足来八 ひろめ。

くろんでくり。依田大服後大服だ田大服色大路に名けるられたねとろかりで、 龍のあ てゆうかしい中八合教のないだしる とわってはかられば出の名名できぬりる なりるれれかりるるれまくなりりてるる 大限され大阪後大阪と、中しいりうい まからとないとなとうなければ者のおかららいるとうないとう 後何めく。我ろのなずるくや。そろれらけられていいているかとるなくりのは者たり 後かせみちとめはしてれるがっときま かくる人を電ところとけていい歌門と アとゆうかはんとからんしる他かられる 星是教れなくういのかる。被は方の中る うなんとおいいか事也られい帰氏はさ of still while

のの長んからとい降風みでんらきとれくからは人の家康公三川をあかりとして そろれでくり。依田大服後大服太田大服追大服と名付了るは大的之人から下 龍のあ 中かるいとりといるまれならいやーを とれてくせりっきれば出の名名をきぬべる さりるれれかりるなれまくなりりてるる 大限られ大阪後大阪との中しいりくい てアタケーのは平八合教のないじしる 後かせするとめはしょれのううとまま 後ではいいでくっかとるなくりの大名にきないけいけいいでくかとるなくりのは者をすり かいる人を電とのそれていい、歌門と まくすしぐれったるとうは竹は着る 北外房昌後或卷房外数本一分のでは 金見教れる~ういのする。歌ゆうの中よ かなんとおいいか事也っとは小像氏はさ アとかっかは名と何らてしる他かられる

馬上したとうどりてまたしまとる経験と おまっているのとかいけん切てへという からいるよくしまかりておくしるへと 年へともろうとそれてきじくを動 ふかろれから、飲みかれか歌しはうしは とう者いるくろどうく歌い者いれせる かり、するの家、長んかけらくろ一名。まれ すべの名をかりっくとしる出のねしい ワバケー里る。低の像下するこまったと対 き。我多のお風也かみか風の内かある。相様は成後、下後、民政の外風必奏。上後 是一八首品牌民政と。星見表多数八多。 三浦を水場し、上後の台降の別場のお とう人はきて飲味ものれのはあるし かくちわりいしてか意也でんとりるとわ られとのはようがんとう えれかっての付んであると、あるとの名が ○東國山炭品復生之子有大件里了 むとうしてうくかい教學でしては

北代五代元言を復生し、とうなるよとのろれらいよい。 かく。東ちの海賊成时に被二般一下、民政の兵政の三庸三勝小ででくる。至を あかべりまれるがりででのみたない 本中之後海上演多の生でされて、さい一致 明心社れとりある。做了人。南星を 事がしくるといいくさるんますす。 あるなくいろうとはくなめと、見たというないくないというというないくないというという 焼いいしとろうけまる。あともとしと とう。そと日中しるが大中かろは悠を 名は書のろしては三風かららえれ 見後とすせて山がし大ときにいけの見切し きくわらいからいれ後野子さかりるる まかし、相圖」きる事わる作のも書とれ 佐風かしわり。昼日経下と見とう多の物 三時へいろいみとませと。もとおういいまし 細すると、活しいは、アラン風心ア 一人寺でよく。飲つあるかととすってとたて うちからとべもまれいまっていっけし

本中小は海上演多の生でとう一致の大人の大松の三浦三海山ででくる。まるの海城武町上渡二枝上で大阪の大松の三浦三海山でくんである。 軍を行うるというでを手から あってしまれてあがりたっとのみたいて ひろくくようとはととう見たとうくないというというというないというというないというというないというしょう 焼けりとろうけまる。あともとしく 明の教配とするから做了なく。浦里を だえるべきいとういますののだがか きくわりの震場がれる野丁さかりるる 名付き書のうしては三風かららえ 見たとかせて山がし大ときのいけの見ぬし 佐風かしかの、多日経不と気とうあの物 三時へいているとませと。そともついりまし リ人きとよく。敵のあるととけっととって 細すると。活しいは、アナノ風心ア まましれ 園るきる事わるれのもまとれ うちからとべもなれいまかべるかけし しつさき 三十一

と美国の何とすいるいろうやまたのかというというなからいるないというできいるといういるなわる きてからもしいている日むとろがためと ふらんときくいりくいもととちろくとなり としている。地大しいり。古治し 名付意了集了 门の中村まりりくさからしんとせてうでき日程 朝しるきますっくなどよめる命のとうとやと あさえるとうとななとまてのうしておいるとのできているとうとうとうとないましましてるべの 過むからくれがあされやてあろしれ事な 国」は我わら明歌とかろからんさく。軍会 でまてかりまとしてが大としようりです大 しむられば複のる個多べき事也ね人将火 と付いるさなしますけてしてはななくるの とるのいかりとくなとる大が明れて火

かられるれたときってれているからないようなからいませんというないというないのではいいいのというないのというないのというないないのというないのというないのできる ともありえた。もとあるのないがない くうわりてる意味いとてんと欲せられて りの祖もハスーの事也と古文工人はせかり 里るくってまのりてりぬれれれんとわどからなる ないうとういぬするといればとさいことがあ きのでくろうとはあわりのとうるころうな 中三浦場でもは夏の風へなぬといははり十つ かすりひでくったいかんときるのであるう とくたのよれからはいりってってとしてかい でうるかわりいめとまとしていりかと送るされが 火ときってんたえかの火とちりからはるとあ みもやみの他はしる古と像ねとしるされてき 内を不らかいるいにわりてきのありけるかか かれ中かけるの風の後してせるうちゃんかの ねるからにはちの三浦海を火しはてかりかせる 事の軍はしかしているの上からるをちれると る石機けのないちりくいかくこれなんなる まりむのですいのむるよくとしょう さるせん

もなりからううべきあるてからんとまて 命人のなとうてらしるや他しかつう難のる とくない、後でのけのゆるます。天上はは めていると大体のようかしてるかり やてよる大件のとうとからのかりんるとうなる きるてそ时姓と大件さるのとするかいは 古今のほん大体のするもうかってのきぬいやしい さくているかん後山かりの新の歌 きふれるのおくっちとかるかりるれたなと さいていくうる命の中かちう集り 略の長明東風於行為次のにしたが後の名は はからいりをはしたくるとはいてはってといれないというとうとなったのととはけかなってもをからないとはいかなってを報う 高の個へ行きをするとはいかいいいて三浦 はくななかけらり内のをなつとうよくいるはく ありなとはいっちつの約のありいてむとい 力でするかられるなるのなっかった の之祖からううかと、然め彼しの最行天皇子 むであるというのかのからとううからい

北條五人できり大部一人都大的人でんりへの降早宝氏 大子息氏とこれの事いでないないは三代う 籍と焼ばかの大るか大会とうで見太散と なとかられるきるとつけのほかれとゆいれい てきあっためる」はかしたのなしと 教場しよく。我の国前となく士卒といさる我 なとこれとはくる大わのはは、東西南小のる 作れの事様かと中かは数元的方方 とうてはまりの公列といったわのかしかる と。退くさてもからしたとりあて見ろうち 年ある思となる。とうちなかとすてできている二はためがないとのり見とからればめの多くとすてご しいうしというとしろかなる合教多をれる の例うらねるいのるいは家の軍し見太鼓と そべくとうけていかとうましかんうかね古今 かく。ねなの合欲してれわいるとうそれ大心車。 〇小学家の軍小人大教と見る事 れかってきます」のかう」といくとや ちと見る事。金近たし清平な病と一日 ますしていきは軍いといけかられてもちょ

かく。ねなの合教してんわいるとうでれてわ事。 籍とは誰かの大るか大会とうで見太敬と なで息氏とこれの軍いでないといるとう 大学的人名言於一次一个人的學學是民民 教場しよく。我の国家とうと、生年ところの教 好とからよるさるとうけ、ほかれとのなれい て変更くなめる」はかしたのなしと そがとうけているようまっかんうかわちう の小学家の車小見太朝と見る事 ないるとおけるのかってものとと であてはまわり。公引というためのかっちっ しいうとないこととうかない合教養をれる なと、これとはいる大かのは陽東西南小のる 作れの事。はかと中かは数元はたちりだが と、退くとてもかりらしれもの時で見るのち けるからでするととなるのないとって生 ちと見かす。金回を上端平であるとう の例うら物人小田名小牌家の軍工具太鼓と なすられていきの軍へとひけかんれていると 幸かる思とれてはらるうちとゆていることからだか

多名信心的村山外庭摩で号し、大見一少事。見太敬の勢からでかり、何様大山し 政が登とくくる者或るるのはは中と かかとはくとういもかしどある大わしと と飲味の対けとくろはとるの後でしてれる 一人二人へらんで、集て合教といめも味方の強 なくすくなりいかりっとかった軍とかといろい かくなり太朝を接風とかり。軍长了る 文ならでの大動小二番風と吹きは見吹食す。 かいまめと吹きととてなけりできて りきべついろいめとはときのとととも きゃうも引し好いかりるるて軍と礼さ 中かとて主奉もまとれる過くかからろう 六分太敬心三数夏吹四陣夏吹打至了人軍 の妻子の帰っていく付ろう。合教真でらゆう 多で見ぬかられておりり、吹きらなし わったいいかしり別い吹者なりる年町へでなる 大からるへの国局を財したの見るとう付いろい 一直の日打金よるかろ八八大数を指て、強 されとすいままるかは家軍はされてかき るべの合なをねとるうと、飲と味方しき 飲一人かれりて益わられる早をすりこので 名よういての数五八三ろれるういかりと をお上の月み月中地とようよとかりも 常の後の二月一尺とりましるけるりる祖之を くちあく。夏大村の威徳と風いそらて、きな てきととかても引みと、城上野の中ともうう とうないにくてもととうけ見とはな かの見太朝の教とはて多月去明とると 敬とたろれるれきろうとかれた引教とす あいっけつきつるでとういろろれつのれきない 放見せろうい軍了歌七崎方七三百夜でか と見きるにはいるうゆきなくなどわてろうちく とくかうりてるとれ切けんといとはあいひろう 飲ううるかかったりずやらんとととと くれくいうだらしるとながなって、後河路と くる味方へまわっとうしゃのかまくれてる それよ同とうけるととうとどろくつてくりと みてるれ飲地ですしていずとでかるってらのが

ともでかなの合教し、軍長員太朝のなどさ とれてる軍と良じ、极人大合教」の第一の軍は 強敵ととる古むのいさめと町んととりらいった かかられるなるといれるころうちゃく 八陣の園とんで、死屋支干とあとりいきま ちてもの次々であるの後かり。と上大わらくな けってとなったんの食者ゆうまていてく。表から りさいひとすっていからっかといれてきます 甲子は酸の村がでするるとう他風へ打越の中の行 ているべいなかれるれる中子年の月八月中のこれなっているであったりからいいきも元的から りて。甲島とうとうる氏康はりとせん ているとするとなりっとなったりとるいいらって と越ずうろいるできるところであの利の教ひ うなってれた内がしてりますよりましていたますがっ ふ味方打員とうれとうの歌いさかいとう るで佐の風のる聖書合教文氏康氏改立發化 1七二次13年了本版教十町了月七付かかか からる軍とという事のところかろうろの大阿 利也のもとんずるかは方かつらしてあるる

皮唇との大とうくる人事かり。他上之方です、ひりの国外友以上校屋改しいは年の大亀陸へからま さとする。見太敬としからといかなる そりとするれー きかからとうかまして物化とと。れ 可数。民意成と大軍として、みまれるの りとろうれるらゆっとうんがはぬき強や さくとしてはあとわけるとこるものかりあ 一月ての伊皇を根。西西梅地。三代大明神のけるからであるととなっているというというというのとのというからでい 雑食了と了成成以上全合致し。星と天 東花待しいくくくる一年と民事多数的人教 吃成公上校と一味し、天文十年年のま。我们 量ととくたらけ果とべることが次のかなる らうかとっての城とわを欲とべる気のれると 祈祷の気わり。過食八樓まるとてい意情 なくの民城中の者のかってくりとだらけ 余人。就是者大兴秋代。没了餓死了學了 かかしてある一番ろとうりとの版中三子

集列作一品版教化了及前面做の犯别を等等等。最高として一人不可以的人人 ころして後の色と大海へしかりして 明神であの多くとてを建めるまでかりら るううはいあっていちろのは見か田なのは それも後とる事いうりのは風だかくられてど それともうかてとゆっか二日いれる大 後とれてせる電の甲のよかっととなりりろい 多なって神明のみとでれまなかりとう かられるを年三月水日の日中、大亀一ついか の極ばと他はていまりてるでなる大明神文 春平からるかれるはる駅甲少んとる 他つちずる事の日やな場相かりとく。即刻ま 人がカみくわらでよる也民意中了る大島陸 でくれなく。お名大明神の他のきによる 国の浦とめたっていわっい町人もとわやしと 随ちの古例がからそいとくるるの家平変の

老子子とそれかりの人亦をとるの見に恭平子とそれがりの人がありるるという ううのまくる大助なとうなとれるの たいいとあわらかさらしたではのるまでくって くてきかとと本るようなりにはの おくまくれる項的のそうとしいいず 風しまりはとるという祖とりなったり ひかきという風かりまのはるがの項羽とりる 教を気ねいかりる。帝王及今かりしてて とからりとで成て、人とるさどの外か 者とううぞせられかられて己よころことの ちて項羽とのる祖と父項羽の尾よっ項在とい まとすいるできるともしくっていけいりとと うろが気のあるかく元の位のようりち祖のといんくいとる者があれると確ち 时多祖の頂明の内裏へ行幸かりかは恭平 からなりる祖とはできしの。しろらと おしていまとてやるとくまるからきり みというわく。思想がようのなんとい

と切りの参平まいでくいかりそうらう 地方は一ついくいかからかったっているのか は到りなんできるとうしというまたからというできるではかしばの明とかれまかられるからの明とかれま 色也大選の大きい美したくちめ りすぐれるる。様でるというれとのり サ日子代別から日村をとろろのちし ていまかけんれんは一合教の国人がとい 勝て多方明成五上松園政とよけし、月女日、千八村」といる人家は ときる日共人日氏席軍去と至し。成例へ さりくれなりなりでありのは鬼医へわが 当時が数の他、ケートを天文十五年で 個職ときゆしゆういしる国事法情

されとう人場員とはというがからいよる ふり年の三月大三月竹の大亀派氏のいれる ううかつととりてきときる。必氏の大やきとん の大的軍。冬何寺花松、女子。冬何ち内ろして そいる事心との別なとかっといれとけてを変ぬ かかんとうきくちのゆくもとうくてのから かられるうのはまる国のは上のは平まり。 夏の海上了。軍的とうの教ひ多く教月とき の古る地科の雅をとうととうためたったりのは後へ裏しりませんとしてくるという かとれてくりんいなねとくさりはて のいえかり、けの後と、題気く陰しよう そうたわられといえとととうかけす

とこんで合致といのはある。平氏とうくく 題の多数の生なきして十大の霧の数の しるこのできた下太平。海川ろけるな民はとう也のからいいとのとうというないというにはしているというないというというというといっというというというというというというというというというというというというという 文岳の成りしてけるが気の亀。海中りり順か してきまるしたどしいいくりょううある としそいう。国東からかんだの髪とゆようみを 事代かり ● 動力犯は若み語事 どのはとなっというかられるととれていれ かりるとうとうとのとろかけるのなまる 付ているくるのといっかりのかしゃるというる 奇以客をふったいろうへと。大かいさとうり そくらいちくもとっとしてるとのあるまし は梅子世のれるれるようはんツナのはしりったから 師色のとくともしょうしゃいりれてわし るなからいめとまといいとうなり きていかってるけていいというとうかったい ちくいとつまるかかれれの日かりい

とくかおうとかられたかなから湯の言は へはいらとかっというとう なともわるくくくはとうの何事とる家 年の事かとる中枢と名をおる ろうか像氏立る山地での村民がとりかんのる 三升ちの桂油津町の梅着のとり小児」を意 やいうりつろくのにはいるときのたとうないとなんしという 十 即見ととくるねもうかしゃっちつかんだとか さるていかとうら、吸したさそて果らいなる でするとをかすかっきだったくろうなと ういきといいろれぞいはるまとくち場ねとろう ぐいかとないるのりかるうりりつが天子十三 むりるきかくとははかちょくかない りそびろのはいちて即とるかれれるといり 息ったおれとうて十二歳しから着る客を しりに対とるうしませのれたちれたり れ物しのするいいかっとうかゆかに事る わざかきとう名気やして、殿とける。脱といる

しきくの別なりなるべしとのおはころかれれれいかりますのかっているべしとのかくろうと面しな うつうできるできるとうないからいますのはようないまするとうないできるとうないのはまするとうないのは、重 さられるけんととくる十十日本自言一路人 わられとはは国外のかりの大人しかくしてる ううのからうとあるして世里あってういる れたしてくるなれて十年と初といる 風のかさわい人は鉄とゆかっまったのろうく グラかんがっていかののあとる」ととと の意まというがとなるじままとうら やうらのようご不られかのなきつける る二次れいとうて切らけっきというれてるは の気に入れる質しというとのうかっきでれりるという人からかりものうちのうという人からからもありとは次の帝王 せんだいかうううのる世のるはしいとい版切く おったからはなったときろくせるめとから まべせおくだろうく酸と切れをないにくまっ かられるとけるとはといるとえの上上は ところの教理れるでとうるひとう事。

そうくき文と二十とろして動いる 服とほどうなかできるとは東からかいくのだいようとうなりないという とはのけるとそれをからまるというようとうないないののなとそれを即去れて即をあるをとうないと てくまとえるかれのぞく海をどうかされのかくないない 礼風以後。関西南風人かく。東風、十八年去地は。一人風とするがった。根人之年風子 しせらびれる。大方内を書るときく二十 得るしからとうてなるとうであれるとうなるのであれるとうないのないないとうのはなるのが得を かしいのくというちりがうといい国 よっとかられの国まのしていている世のれ るうけもかようのけもかしとべて こといれていざりき概念から、国あえい ふときというからきとかってると もとれてようの表記はからりいなっ たろどうなつけぞくろうしか食事してる

持くるとしるの関西なのはほとうとかり とうこれではれていていまいるから 小學之代記老中八经 TO TO TO THE TANK かっちゃんだったい なうないですのとしまっただく というというというできること

